

子宮頸がん

【集学的治療の実施状況】

○産婦人科

確定診断のために、コルポスコピー下による組織生検や円錐切除術を実施します。

I a2 期からII 期までの症例に対しては、広汎子宮全摘出術を施行していますが、合併症のあるケースや高齢の方など、症例によっては放射線療法あるいは同時化学放射線療法を行う場合もあります。

術後に補助療法として根治的放射線療法を行う場合は、全骨盤照射は当院で実施し、腔内照射は名古屋大学医学部附属病院と連携して施行しております。

○放射線科

画像診断と放射線治療を行います。

○栄養サポートチーム（NST）

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

○緩和ケアチーム

医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》

子宮頸癌治療ガイドライン（日本婦人科腫瘍学会）

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック（日本緩和医療学会）